

**令和元年度第2回**  
**神奈川県公立大学法人神奈川県立保健福祉大学評価委員会**  
**議事録**

**議題1 平成30年度業務実績の項目評価について**

---

事務局から資料1-1～1-4を説明した。

**【質疑応答】**

**<小項目16>**

○**鈴木委員** 教員の配置が十分にできなかった点を課題として捉えることが重要である。また、原因を明確にすることで次年度以降の計画に反映できると思う。コメントの文言について、教員を充足できなかった点を課題とすることが「望ましい」とあるが、「すべきである」など表現を明確にした方がよい。教員の配置は予算額の10数パーセント分を消化していない状態なので、Bと評価した。Aと評価するには厳しいだろうと考える。

○**保健福祉大学** 教員の確保について、医師、特に小児科医が非常に厳しい。看護師等は退職の時期が年度末になることがあり、その時点から採用をかけると年度当初からの採用が難しい。非常勤の配置などによって対応しながら、年度途中で採用を進めている状況である。人材獲得競争の激化以外にも、そういった原因を書くこともできる。

○**長谷部委員長** これは年度評価全体に渡って言えることだが、計画を遂行した結果、うまく行く場合うまく行かない場合もあり、外部要因も影響する。教員の引き抜きや途中退職は、どの大学でも苦労している。より良い教員を確保するための手立てを取っても良い条件の大学等に行ってしまうのは、仕方のないところがある。私がこの項目をA評価にしたのは、大学からの説明を聞いて、外部要因が大きかったためである。また、公立大学法人の評価は基本的には6年間で行うものなので、教員確保の取組みが来年には持ち直す可能性もあり、短期に良かったのか否か判断しがたいためでもある。教員の確保は大学にとって最も大事だと思うので、年度評価であっても、この項目はもう少し経過を見て評価すべきかと思う。ただ、人材獲得競争の激化の他にも原因があるのだとすれば、重要な検討事項なので、コメントを入れることは大事だと思う。

○**鈴木委員** この評価自体が、「評価すること」が目的になっている印象を受ける。評価はPDCAサイクルで言うと「チェック」して次の「アクション」につなげるものなので、課題を明確にし、来年以降より良くしていくことが極めて重要である。良かったことだけを述べるのでは全く評価にならず、次年度以降に繋がらない。課題を把握して明記し、それを次年度以降に生かしてほしい。

○**平松委員** 教員の人数の充足について、違う医療系の学校などから教員をまわしてもらおうような、独特なルートを持っていることはないのか。

○**保健福祉大学** 県立大学ということもあり、基本的には公募で幅広く教員を集めるのが原則である。ただし、教育研究審議会でも外部の先生から、どうしても集まらないような場合は別の採用方法を検討しても良いのではないかという示唆もいただいている。特に医師は難しい部分があるため、公募を原則としながらも、他の方法も検討して充足するというスタンスで引き続き臨んでいきたい。

○**平松委員** 人脈や予算など、いろいろな制約はあると思うが、間口を広げておくことは必要ではないか。民間の考え方からみると、公募以外の方法を検討する必要性があると思われる。

○**長谷部委員長** 教員はすべて公募に限っているのか。

○**保健福祉大学** 原則は公募である。

○**長谷部委員長** それは、公募でないとも良い人材が集まらないためか。

○**保健福祉大学** そういう前提である。

○**長谷部委員長** 本学も原則は公募だが、分野や時期によっては弾力的に考えることもあるので、検討してもよいのではないかと思う。

資料1-2では、小項目16は評価の平均が3.4、評価案はBとなっている。今の議論を踏まえていかがするか。

○**鈴木委員** 長期の視点が必要であること、また、外部要因があることも、間違いはないと考えている。しかし、年度末の退職は恒常的な問題であると思う。そういう意味で、やはり年度評価に反映しておくことも必要であると感じている。

○**長谷部委員長** 人件費が2億7000万円下回っていること、原因の分析も不十分な部分があったことを鑑み、評価案Bを委員会の項目評価としてよいのではないか。（異論なし）

#### <小項目 17>

○**長谷部委員長** 小項目 17 の図書館について、コメントは素案のとおりでよろしいか。

○**鈴木委員** 数値目標を計画として採用することが、手段の目的化になっていないかよく検討いただきたく、このようなコメントをした。原因不明の状態であると、それを引き続き目標にすることが適切なのかわからないので、検討の必要があると考えている。上のポチ2つはコメント素案のとおり記入して良いと考える。eラーニングはいろいろな課題があるとのことだったので、それを具体的に書いたほうが良い。今後きちんと取り組んでいくかと思うので、それを計画として次年度以降に反映することが必要であると思う。

○**長谷部委員長** コメントについては、その通りだと私も思う。ただ、環境整備などの計画が達成できているかが一番のポイントであるため、私はA評価とした。図書館利用者数も、年によって変わる可能性がある。本学ではインターネットを常に利用できるコモンラーニングスペースを図書館に整備し、これがかなり好評で、学生が自主的に使っている。単に来場者数だけが図書館の存在価値でいいのか、という部分はあるので、利用者の増減に関する分析をした上で、しっかり対応していただきたい。

○**保健福祉大学** 5年前には図書館利用者は9万人だったが、現在は6万5000人まで落ちている。学生が本を読みに来ない理由は、教育の質に関わる問題であるとも思う。個人的には、大学だけの問題でなく、高校までの教育にも関わっていると思う。こうした点も含め、もっと図書館を利用してもらうためにはどうしたらいいのか、指摘のとおり目標値はこの数値で本当にいいのかどうかということも含めて検討する。できれば引き続きアンケートをとりながら、図書館に来ない理由を探りたい。

○**鈴木委員** 教員の皆様としては、紙の書籍に触れることはとても重要であるとお考えか。それとも電子化された書籍であってもよいという考え方なのか。

○**保健福祉大学** 今は学術雑誌がほぼ電子ジャーナルで配布されているため、教員も学生もインターネットでアクセスできる。得たい書籍を電子検索して入手する機会がかなり増えていると思う。様々な学会でも紙媒体をなくそうという動きが強くなっており、図書館に行って実際に雑誌等をコピーする回数は減っていると考えられる。ただ、系統的に調べる場合には、最近のものだけではなく古いものも探らなければ、本質的な部分の理解には至らないため、図書館に行って直接書籍に当たってもらいたいという思いもある。図書館利用者数減の原因は、教員側でもまだ十分解明できておらず、手探りの状態である。

○**長谷部委員長** 小項目 17 に関して、コメント及び A 評価を確定してよろしいか。（異論なし）

#### <小項目 20>

○**長谷部委員長** 小項目 20 の博士課程後期の未達について、受験者数は毎年変動があること、受験者を拡大するための手立てとして大学院独自のパンフレットを作るなどの手立てをしていることを鑑み、私は A 評価とした。日本の大学全体において博士課程後期の未達が問題になっているので、B は厳しい評価となるため、ここはコメントを素案の通りとし、評価に関しては A でいかがか。

○**鈴木委員** コメントは「対応を検討する必要がある」という文言だが、「原因分析した上で」を付け加えてはいかがか。

○**平松委員** 後期課程の目標の基準や根拠を考えるべきではないか。

○**保健福祉大学** 目標は定員の 5 名に定めた。受験者が実際は 3 名しか来なかったため未達となった。定員以上の受験者を目標にしたのではなく、定員の確保をしていきたいということで設定した。受験者数には波があるので、ある程度長期のスパンで見していきたい。動向を見ながら長期的に検討していきたい。

○**長谷部委員長** 定員は、大学院を設置するときに文部科学省の審査の中で、非常に大変な努力をしてニーズ調査をして掲げた、ある意味では一番重要な目標である。よって、やはり 5 名という定員確保は重要な課題なので、未達であった旨のコメントは必要だと思う。原因分析し、具体的な課題を洗い出して、対応を検討するということがよろしいか。評価としては、全体として A 評価としたい。（異論なし）

### <小項目 30、31>

- 長谷部委員長** 小項目 30 は教員数の適正性、小項目 31 は教員の業務の効率化で、C評価の委員がいた。
  
- 鈴木委員** 31 に関しては、直接人員配置、教員の確保のことと関係する部分ではないので、A と思っている。30 も、A としたが、教員ではなく職員のことなのか。
  
- 保健福祉大学** 教員のことを念頭に置いて記載した項目である。クロスアポイントメント制度、裁量労働制は教員にのみ適用されるものである。
  
- 鈴木委員** 制度を整備するという方向のことに関してなので、30 も A と考える。
  
- 長谷部委員長** 柔軟な人事制度の整備と、人材の確保・活用という、広い視野での項目かと思う。平松委員、竹村委員もよろしいか。30 は、先ほどの人件費の問題は確かに関連しているが、人事制度の整備及び人材確保策をどのように行ったかということなので、全体評価は案にある通り A ということで確定する。また、31 も同様に A ということでよろしいか。コメントについて、30 のコメントはなしでよろしいか。教員数が適正というのは、小項目 16 とほぼ同じ内容をここで言おうとしているため、コメントとしてはなしで良いのかと思う。31 のコメントは、おそらく働き方改革の中で、負担軽減というのは大事なポイントでもあるため、コメントとしてはそのまま入れるということでもいいかと思うが、よろしいか。（異論なし）

### <小項目 21～24 及び 28>

- 長谷部委員長** 小項目 21～24 及び 28 は、S 評価をつけた委員が 1 名ずついた。評価平均では A 評価であるが、S にしたほうが良いという意見があればお願いしたい。
  
- 鈴木委員** 大学側が A 評価と記載していて、現場ではできなかったと感じていることも少々あるのではないかと思う。よって、良い取組みもあるが、大学評価の通り A とするのが適切ではないか。
  
- 平松委員** 私も A でいいと思う。基本的には S はあまりないだろうと思う。先ほど申したように、評価は長い目で見るとものである。S をつけた評価が来年度どうなるのか、それ以上上にはいかないと A もつかない可能性があるため、ここは評価案通り A でよいのではないか。

○長谷部委員長 コメントに関して、付け加えるべき点などはあるか。（特になし）

#### <小項目 14>

○長谷部委員長 続いて、各委員からのコメントを要約したのが小項目 14 である。ここは適切に簡略化されていると思うがいかがか。（異論なし）

#### <小項目 37>

○長谷部委員長 小項目 37 のコメントに関しては、私が財務諸表に関して意見を述べたものであるが、財務諸表のあり方そのものというよりも、今後、大学がどう情報公開をしていくのかに関わる話なので、コメントという形で生かし、37 に入れていただきたいが、いかがか。（異論なし）

それでは、本日すべての小項目の評価とコメントが確定した。事務局においては、小項目評価の集計をお願いしたい。

事務局から資料 1－5 を説明した。事務局から集計後の資料 1－5 を配付した。

○西海担当課長 小項目の評価を記入した資料 1－5 について、第 1 「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置」は小項目 1 から 28 にあたる。27 項目中、A 評価が 26、B 項目が 1、平均は 3.96 であった。

第 2 「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために取るべき措置」は小項目 29 から 31 にあたる。3 項目中、すべて A となり、平均は 4.0 であった。

第 3 「財務内容の改善に関する目標を達成するために取るべき措置」は 3 項目すべて A で、平均は 4.0 であった。

第 4 「その他、業務運営に関する重要な目標を達成するための措置」は 4 項目中すべて A、平均は 4.0 であった。

第 5 「自ら行う点検及び評価ならびに該当状況に関わる情報の提供に関する目標を達成するために取るべき措置」は小項目 39 と 40 にあたる。2 項目中 1 項目で A、平均は 4.0 であった。

○長谷部委員長 ただいま、差替えの資料 1－5 で見ると、一番下に小項目の平均値が 3.5 以上 4.5 未満は A ということになっているため、すべての大項目に関して A とするのが妥当かと思うがいかがか。（異論なし）

## 議題 2 平成 30 年度業務実績評価書について

---

事務局から資料 2 を説明した。

### 【質疑応答】

○鈴木委員 評価書はこの後修正し、それをもう一度確認するというプロセスか。

○長谷部委員長 はい。

○鈴木委員 全体評価に追記をお願いしたい。評価自体は A ということで順調に進めているが、この評価では P D C A の「チェック」をして次の「アクション」に繋がるような、できなかったこととその原因分析が非常に重要である。その部分が全体として抜けていると感じる。良いことも悪いこともすべて議論に上げ、多様な意見を踏まえてより良くしていくのが時代の流れである。教育の現場でも、ヒューマンサービスのもと、ボーダーを取り払って議論しようというお話をしているかと思う。法人の運営に関しても、経営陣は率直な現場の声を拾い上げて分析し、判断をして次のプランに繋げているであろうが、それを県民にも理解していただき、応援してもらうことが大事である。また、人材確保に苦労があるとのことだが、人によるサービスを行う大学なので、人手不足は本当に重大な問題であり、財務面に影響する可能性もある。非常勤の方にやっていただけることには限りがあるので、現場はおそらく疲弊しているのではないかと推測する。もともと手のかかる仕事であり、その上で、どちらかという管理面で結果が出しきれていない印象の項目があった。例えば個人情報保護研修の参加率が良くなかったが、それも現場を優先した結果だと思う。

具体的には、2 ページの全体評価に付け加えることでいかがか。

○長谷部委員長 個別の大項目の中に入れるのはいかがか。法人自らが P D C A をまわしていくことは重要である。大項目 2 でどうか。

○鈴木委員 私のイメージは 2 「全体評価」で「順調な進捗状況にある。ただし、P D C A の観点から書き込む必要がある」といった旨を記載することであった。もしくは 4 「評価委員会の概要」の前に「その他」という形で記載してはどうか。

- 平松委員** 「PDCA」という字を入れるとPDCAサイクルが回っていないと捉えられてしまうのではないか。全体的に、結果が出てくるものに対するモニタリングが不足している部分がある。原因分析の深度を高めるなどの改善事項を要望することは必要だと思う。その場合、全体評価の大項目2の箇所に入れるのがいいのではないか。
- 鈴木委員** PDCAという表現にはこだわらないが、できなかったことの原因分析と、それを書面で明らかにすることは必要である。
- 長谷部委員** 人件費の問題、図書館の来場者数減の問題を掘り下げ、次の課題を明らかにしていくことについて指摘はあってもいい。4ページから、大項目評価に関するページがある。5ページ、大項目2の業務運営の改善・効率化に関する部分に、分析等をして次の対応策を明確に位置づける旨を入れてはいかがか。具体的な内容は事務局で成案してもらいたい。
- 西海担当課長** 承知した。
- 鈴木委員** 小項目33の電力について、一般競争入札をして使用料が下がったと大学から回答があった。電気量削減よりもそちらの方がインパクトが大きいのので、記入してはいかがか。
- 長谷部委員長** 電気料金が減ったのか、電力量が減ったのか、どちらか。
- 保健福祉大学** 両方である。入札方式をとり、いわゆる新電力となった。
- 長谷部委員長** 電力量はなかなか減らないものだが、今回減らすことができたのであれば、両方記載した方が正確ではないか。（異論なし）
- 西海担当課長** 資料1-1の小項目33について、今のご意見を踏まえ、コメントを修正させていただきたい。
- 長谷部委員長** 承知した。それでは評価委員会としては、ただいまの意見を反映させた結果をもって確定させたいと思う。なお、修正した評価書は、後日事務局からお送りし、最終版とする。また、先ほど事務局から説明があったが、今後、大学に意見申し立ての機会を付与することとなる。仮にそこで極めて重大な問題が発生した場合には改めて委員会を開催するなど、対応を検討することになる。そうでない場合は、最終的な評価結果の決定は委員長一任とさせていただければと思う。この点についてご了承いただけるか。（異論なし）

### 議題3 平成30年度財務諸表等に対する意見について

---

事務局から資料3-1、3-2を説明した。

#### 【質疑応答】

- 長谷部委員長 先ほど私から説明したように、業務実績にコメントを反映させていただいたので、承認に問題はないと思う。また、利益処分に関しても、特段大きな問題はなかったと思うので、このままでよろしいか。（異論なし）

### 議題4 その他

---

事務局から今後の予定について報告した。